

■江坂恵里子氏インタビュー調査記録

デザイン都市・名古屋のプロモーションの流れ

日時：2022年5月17日（火）15:00～17:00

場所：長者町コットンビル会議室（名古屋市中区錦）

出席：江坂恵里子／青木史郎、黒田宏治

*江坂恵里子：1962年生まれ。ロンドン芸術大学セントラルセントマーティンズ校大学院修了（デザイン・スタディーズ）。食品企業（名古屋市）の文化事業部などを経て、2009年（株）国際デザインセンター海外ネットワークディレクター、2016年より名古屋市観光文化交流局文化推進課国際交流専門員、ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会プログラム・ディレクターとしてユネスコ創造都市ネットワークなど文化に関する国際交流事業などを担当、2020年から3年間のプロジェクトでなごや日本博事業「ストーリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」を企画・運営、現在に至る。



【目次】

- アーテックからのメディア芸術の流れ
- デザイン博と愛知万博のつながり
- ユネスコ・デザイン都市の事業
- 海外のデザイン都市と比較して
- デザイン都市と国際デザインセンター

【参考1】ストーリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ

【参考2】ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業（平成30年度）

+++++

—— 江坂さんは名古屋におられ、（株）国際デザインセンター、名古屋市役所で10年以上デザイン都市関係のディレクターを務められています。本日は、その経験を通じて、今日に至る名古屋市のデザイン都市の流れについて、いろいろお伺いできたらと思います。

●アーテックからのメディア芸術の流れ

—— デザイン都市・名古屋の活動を遡ると1989年の世界デザイン博覧会（以下、デザイン博）に端緒が求められます。江坂さんは担当されてはいなかったと思いますが、当時の名古屋のデザイン振興の活動をどのように受け止めておられたのでしょうか。

名古屋では1989年にデザイン博があって、約4カ月の会期で1,518万人の入場者を数えました(*1)。いま思うと、デザインを核に据えた都市政策の事業としては、すごく早かったのではないかと思います。東京とは状況は違ったと思いますが、バブル期とも重なり、中京圏の企業にもすごく勢いがあったという印象です。

(*1)世界デザイン博覧会は、1989年、「ひと・夢・デザイン都市が奏でるシンフォニー」をテーマに、市内3会場（名古屋城会場、白鳥会場、名古屋港会場）を使い開催された。会期は7月15日から11月26日の135日間。入場者数は1,518万人を数えた。

当時私は名古屋で食品企業の文化事業部で仕事をしていたんですけど、その頃は異業種交流会なども盛んで、そういう会に顔を出すと、デザイン博に関係する人もたくさんいらっしゃいました。デザイン博の開催準備には、あらゆる分野の人たちが関係していたように思います。皆さん何かが始まるのではという期待感をお持ちでした。大きな志が都市全体に満ちていたように思います。

実は、デザイン博と同じ年に「アーテック（ARTEC）」(*2)という、ハイテクノロジー・アートの展覧会が開催されたんです。アートとテクノロジーということで、アーテックと名付けられたとのこと。その展覧会のことは私もよく覚えていて、いま名古屋で企画して

いるなごや日本博事業の「ストーリーミング・ヘリテージ」というのは、そこからの文脈に連なる文化事業の位置づけです。

(*2) アーテック (ARTEC) に関する参考文献 (論文) : 井口 壽乃 (埼玉大学) 「世界デザイン博覧会における国際ビエンナーレ「アーテック'89」再考」デザイン学研究 Vol.1. 68 No. 3, 2022 年。当時の状況が詳しく紹介されている。掲載の関係図 (名古屋市事業マップ) を見ると、世界デザイン博覧会を契機にどういふ政策が名古屋市で展開されたのか、その中でアーテックはどこに位置するのかがわかる。

アーテックは、当時中日新聞事業部に在籍された方の発案で開催に至ったとお聞きしていますが、デザイン博の白鳥会場の中で展示が行われておりますので、デザイン博を契機に始まった事業の一つであることは間違いありません。アーテックはビエンナーレ方式 (隔年開催) で 1997 年まで 5 回開催されました。名古屋市や愛知県は製造業を中心にした産業エリアですから、このテーマはすごくフィットしたのかなと思います。アーテックは、デザインのやるべきことを広げた旬の話題だったと捉えていいと思います。アート (芸術) とテック (技術) を一緒にするのもデザインというのは、新しい観点だったと思います。

あと、メディアパークが開館したとき (1996 年)、デザインセンタービルの中には名古屋市文化振興事業団が運営する「青少年文化センター (通称、アートピア)」という施設が入っていて、そこが大変先進的でした。アーテックからの流れで「メディアラボ」というスペースが設置され、当時はまだ他ではこの種の施設はなかったと思いますが、一般でも会員登録すれば誰でも無料でラボにある最先端のコンピューター等が使えるようになっていました。

メディアラボにはコンピューターやいろいろな機材も揃っていて、当時はすごく値段も高かったですよね、そこにはディレクター (専門の指導者) もついていました。そして発売されたばかりの iMac がメディアラボのコーナーに 20 台くらい並んでいて、そこで子どもたちがお絵かきソフトを使ったり、大人は様々なプログラミングが学べたり、一人で DVD の映画観賞をしたり、まったく新しい体験ができる空間がつくられていたんです。まだ人々がパソコンで何ができるかはピンとこない時代でした。

それに加えて常設展示のコーナーでは、八谷和彦さんの作品や岩井俊雄さんの作品 (自動演奏ピアノ) とか、いま考えたら信じられないくらい充実した、最先端の体験型の展示が揃えられておりました。これも設置の経緯を辿っていくと、やはりきっかけはデザイン博だと思うんです。私は、それらの展示がとても面白

く、また、同じフロアで芸術文化活動のアドバイザーも担当していたので、毎回訪問が楽しみでした。それらをいまリサーチして、「ストーリーミング・ヘリテージ」の中でも振り返り、今後なにかしらのアーカイブとして残していきたいと考えています。

「ストーリーミング・ヘリテージ」の企画背景としては、1989 年のデザイン博から、同年、アーテックが始まり、2002 年の電子芸術国際会議 (ISEA2002) や 2003 年の世界グラフィックデザイン会議 (Icograda Visualogue)、2008 年ユネスコ創造都市への加盟に続くという流れをちゃんと見ましようということで、市内の中心を流れる堀川を軸線に、南北軸の回復という意味合いもこめ、また少し大袈裟ですが、アートによる都市の再生ということで、2021 年から展示やシンポジウム、パフォーマンスなどいろいろ開催しています。

白鳥の国際会議場は貯木場を埋め立ててつくられたこと、名古屋港でも埠頭の倉庫群をアートビレッジにしようという動きがあったことも、ヒストリーとしてしっかり記録していきたいと思います。この事業では、その歴史を踏まえて今の私たちはどんなことができるのかを前面に出して構成していきたいと考えています。私は過去を懐かしむのではなく未来に向けて、バトンを渡す人だなと思って活動しています。

●デザイン博と愛知万博のつながり

デザイン博に関しては、当時名古屋市役所職員でデザイン博を担当されていた加藤正嗣さんがスライドもまとめておられます (*3)。デザイン博当時に博覧会の中核 ((財)世界デザイン博覧会協会) にいらした方で、その後には 2002 年の電子芸術国際会議も担当されていました。デザイン博の入場者数 1,518 万人というのは信じられない数です。いま芸術祭で 50 万人の参加があればすごいと言われるくらいですから。

(*3) 熱田区役所公開講座「世界デザイン博覧会から 25 年デザイン博が変えたもの、残したもの」2014 年 10 月 31 日、
<https://www.city.nagoya.jp/atsuta/page/0000064732.html>

いま思うと、デザイン博のときには賛否もあって、お祭り騒ぎになってしまってデザインではないんじゃないとの批判もありました。また、マスコットのデポちゃんも、デザインのどうなのかと。ただ行政的には一つ大きな事業をやったということは重要で、この事業は当時全国各地で行われた市制百周年事業と競合関係にあったわけですから、お祭り騒ぎ的に目立つのも必要だったのだと思います。

加藤さんのスライドを見ると、1984 年の市制 100 周年記念事業基本構想で計画がスタートしています。そして、1985 年に世界デザイン博覧会の構想を発表、

1989年にICSID会議とデザイン博が開催されました。その後は、1992年に国際デザインセンターの会社設立（開館は1996年）、1995年に世界インテリアデザイン会議、2003年に世界グラフィックデザイン会議、2008年にユネスコ・デザイン都市に加盟と続くわけです。市制100周年に向けては、オリンピック誘致の話もありましたが、こちらはソウルで開催が決まりました。

名古屋港会場跡には今もポートタワーと観覧車が残っています。名古屋港については、デザイン博が終わった後に港をもっと文化の薫るまちにしようということで、1992年に大型の複合施設「JETTY」がオープンしました。当初はショップやレストランが並ぶ一画に、現代アートを紹介するギャラリーやアートプロジェクトを企画運営する会社、CBCの放送局も入っていて、少しアートを発信する動きもありました。

最近ではその歴史を継いでといますか、名古屋市の事業の一つとして、音楽と現代美術のフェスティバル「アッセンブリッジ・ナゴヤ」が実施されました(2015年度～2020年度)。名古屋は港のイメージがない都市なので、デザイン博の名古屋港会場もそうでしたが、市民にもっと名古屋港に目を向けてほしいとの想いもこめられています。また今回日本博のストーリーミング・ヘリテージで運河を取り上げているのも、同じような理由からです。名古屋には水辺のイメージもほとんどありませんから。

少し時代は戻りますが、2000年前後というのは、2005年に愛知万博開催が決まっており、それに向けて名古屋市では続けて国際会議を開催するという方針が示されておりました(*4)。その中の一つに世界グラフィックデザイン会議(2003年)も位置づけられたという経緯もありました。そして、2005年の愛知万博がきっかけとなり、2010年から「あいちトリエンナーレ(現「国際芸術祭あいち」)」が始まっています。

(*4) 2001～2005年の名古屋開催の国際会議：世界劇場会議 国際フォーラム2001(2001年)、電子芸術国際会議(2002年)、世界グラフィックデザイン会議(2003年)、ITS世界会議 愛知・名古屋2004(2004年)、2005年日本国際博覧会(愛知万博)(2005年)

2005年の愛知万博ではたくさんの市民ボランティアが参加しており、そこに市民活動の機運醸成ができてきました。デザイン博の時代には市民はお客さんでしたが、愛知万博になると市民は主体的に関わっていくようになりました。これはとても大きな変化だったと思います。そこで市民・県民の非常に強い意志というか、エネルギーというか、そういうものをどうやったら次につなげていけるのかと検討する中で、始まったのが国際芸術祭・あいちトリエンナーレでした。そ

の辺りから名古屋の都市政策のテーマがデザインからアートへと、少しずつシフトしていくような変化があったのかもしれませんが。

—— 1989年に第一次のデザイン都市のムーブメントがふわっと広がって、それから10年くらいたって次の目標として愛知万博ができ、それに向けて関連の流れも再編成されたと考えてよさそうですね。

確かに国際デザインセンターも、愛知万博のときにはいくつかの海外パビリオンと連携して、例えばオーストリア館とか、デザインの優れた国と連携して、シンポジウムを開催していました。そう考えると愛知万博に関連する動きの中でも、デザインのムーブメントは消えてはいないですね。世界グラフィックデザイン会議(2003年)は、国際デザインセンターの設立(1992年、開館は1996年)、世界インテリアデザイン会議(1995年)から少し年次が離れており、愛知万博と連動している面もありますが、やはりデザイン博の流れで開催されたと言えると思います。名古屋市は1989年のICSID会議の開催以降、デザインの3大世界会議(ICSID、IFI、ICOGRADA)を開催することを目標にし、実現しました。

世界グラフィックデザイン会議では、公益財団法人日本グラフィックデザイン協会(JAGDA)を中心とした東京からチームが来名し、運営組織もしっかりしていたこともあり、とても大きな学びがあったと思います。また国内外からのゲストスピーカーもすごい顔ぶれであり、芸術系の学生たちも日本全国から集まりました。あの時に参加した若者たちが成長して、今ではデザインの最前線で活躍しています。現代デザイン史の中では1989年のICSID会議、世界デザイン会議の方が注目されるケースが多いと思いますが、中身的には世界グラフィックデザイン会議のコンテンツはかなり充実していたと思います。

名古屋市立大学の芸術工学部も、同じようにデザイン博からの流れでつくられたと聞いています。産業都市として新たな工学系の分野の開拓も必要ではないかということで、国際デザインセンター開館とほぼ同じ時期、1996年だったと思います。川崎和男さんが教員としていらしたおかげもあって、新設された芸術工学部では国際交流も盛んでした(トリノ工科大学などとの国際交流)。

あともう一つデザインの関係で忘れてはいけない事業に、残念ながらいまはもうなくなりましたが、「ナゴヤ・デザインウィーク」がありました。デザインウィークは世界デザイン会議の開催を機に10月に設定され、毎年この時期にディスプレイ・デザイン・コンペ、

ライブ・マーケット、デザイン・フォーラムなど様々なイベントを開催してきました。2008年からは、地元の大学の先生方や若いデザイナーたちが手弁当で企画・運営をやっている、デザイナーによる市民運動みたいな事業になっていきました。

国際デザインセンターは事務局として場所を提供するなどの支援をしていました。会場も名古屋や近隣の都市も巻き込んで様々なイベントを開催していましたが、実行委員の皆さんにはそれぞれ仕事もあり、一方でデザインウィークもだんだん大掛かりになっていき、次第に手弁当では兼ね合いが難しくなり、2010年が最後となっています。

2008年に名古屋市がユネスコ創造都市ネットワークに加盟して、実行委員会が立ち上がったのは2009年です。名古屋市のユネスコ創造都市への加盟の話は、名古屋商工会議所が発端で、コンベンションビューローも加わり、実際の申請準備などの実働は国際デザインセンターだったと思います。愛知万博が終わってからですね。デザイン都市として新たな事業展開を模索する中で、ユネスコ・創造都市への加盟が検討されたのだと思います。

—— いろいろデザイン都市に関係する話を聞いていると、国際デザインセンターは地下茎みたいないろいろな事業や活動につながっているんですね。

●ユネスコ・デザイン都市の事業

私は名古屋で10年以上、ずっとユネスコのデザイン都市の事業に携わっていますが、誰も名古屋のことをデザイン都市と思っていないと言われてしまいます。でも、県外からあるいは海外からJR名古屋駅に降り立って目的地にスムーズに行けるということは、都市デザインがうまくいっているからと言えると思います。それも名古屋市がデザイン都市を掲げて都市政策を進めてきた成果だと思うんです。

名古屋市では、市民向けのデザイン・プロジェクトもいろいろやってきているんですけど、あまり市民は気づかないんですね。1989年のデザインイヤーのときも、市民向けには、例えば路地をきれいにしましよとか、車止めやバス停のデザインを見直すなど、いろいろ変化もあったのですが、名古屋は体質的にというか、わかりやすく象徴的なビルを建てるとか、あまりそういう方向にいかない傾向はあるのかと思います。

名古屋市の人口は約230万人ですけど、もしかしたらこの規模にしては美術館などの文化施設も少ないかもしれません。例えば金沢市は人口は少ないですよ（約46万人）。でも21世紀美術館があって国立博物館があって、市内に多数の美術館・博物館があります。

金沢市役所の方は、文化施設も多く観光客が来すぎて逆に交通インフラなどが追いつかず困るというような、なんともうらやましいことを話していました。比べてみますと、ずいぶん文化の土壌というか、体質というか、名古屋市とは違うなと感じます。

—— ユネスコ・デザイン都市なごやのホームページを見ると、失礼ながら2016年あたりで内容が止まっているような印象です。何か事情があるんですか。

ちょうど2016年に、事務局が名古屋市役所に移り、市民経済局（当時、現経済局）から観光文化交流局に所管が変わったタイミングです。単純に人手が足りないんです。私は2016年に名古屋市に移って、デザイン都市の事業を担当していますが、いま名古屋市でデザイン都市の事業には私以外に市の事務職員は1人、厳密には0.3人、そんな感じですよ。どうしても市役所内の事務的な対応が中心になるので、残念ながら実際のところ広報・コミュニケーションなどにまで手が回っていないんです。

私が国際デザインセンターに入ったときは（2009年）、名古屋市はいいですねと言われました、デザイン博からの歴史もあるし、大規模なデザインセンターもあるし。ちょうど同時期に加盟した神戸市もKIITO（デザイン・クリエイティブセンター神戸、2012年開館）をつくる準備していた頃です。開設準備室が置かれ、開設の準備もかなり進んでいました。当時の神戸市の担当は、デザインセンターをつかって、そこに専門職を配置して、デザイン都市の事業をやっていくのが理想です、みたいなこと話されていたことを覚えています。逆に私たち名古屋側は、デザインセンターの側にいたので、デザイン都市関係の事業を名古屋市とどのように一緒にやっていくかが課題でした。

名古屋市の場合、先にお話ししましたように、加盟当初は所管が市民経済局だったんですが、途中で観光文化交流局ができて（2016年）、ユネスコの事業は観光文化に仕分けられたんです。そうすると想像はつくと思うんですけど、デザインは文化なのかという話になるわけです。私はそのタイミングで市役所内でデザイン都市の事業を担当することになったんですけど、デザインは産業なのか文化なのかという答えの出ない議論に陥りやすく、デザインには当然文化の側面があると思うのですが、やはり産業の視点も大事なので、立場としては悩ましいところです。市役所内で、ユネスコの冠とデザイン都市の事業が、中身的に分割されているのが難しくしているなあと感じています。

確かにユネスコは国際的な教育・科学・文化の機関ですから、市役所の所管として見れば観光文化交流局

というのは適切なんです、実際には住宅都市局や環境局、観光文化交流局はもちろん、そして経済局など、全市的にデザインの視点や思考が必要です。私がユネスコ・デザイン都市にかかわってすごく思うのは、私たちが他のネットワーク都市から学んだり、共有していることは、都市政策のすべての領域に関係することです。都市計画も産業経済も文化・芸術交流も、すべてです。

個人的には都市センター（住宅都市局の外郭）の事業や、環境大学（環境局の外郭）の事業にも関わっていますが、本来は、例えば市長直下に担当部署があって、市行政の全分野に横串を刺せるような環境が理想だと思っています。いま思い返すと、1989年のデザイン博覧会は名古屋市の総務局の仕切りだったので、だから市役所全部局に横串でいけたんですね。

神戸市は、そのような考えで市長直下の所管で、最初は企画調整局だったでしょうか。当時は副市長待遇で齊木崇人さん（神戸芸術工科大学学長（当時））が、デザイン都市の総括担当で2年くらいおられました。そのときにデザイン都市の政策体系をぐっと固めたように見えました。神戸市は、そこで一旦形をつくりましたから、その後も簡単には崩れずに今日に至っています。そこは大事なところだなと思います。

—— そういえば、1989年のデザインイヤーのとき、僕（青木）が会っているのは自治体の産業系部署じゃなかったですね。総務関係とか、知事公室とか、そういう部署が多かったですね。当時、デザイン政策は、産業振興の枠内だけでなく、都市政策、地域政策の全体にかかわるテーマとして扱われる場合が多かったと思います。

ユネスコ創造都市の例で言うと、工芸都市の金沢市も担当は市長直下でした。ユネスコ創造都市ネットワークの総会（2015年、金沢市開催）の運営等を見ていると、金沢市は都市として文化がちゃんと使えるツールだということがわかってらっしゃる。申請当時の市長が建築系出身だったり、市民や企業ももともと文化感度が高いし、ちょうど北陸新幹線開通もあって、そこに照準をあわせてユネスコの総会を誘致するとか、市民にとってもわかりやすいストーリーをつくってきたように思います。

1989年の名古屋市のデザイン都市宣言は、いま読んでも全然違和感のない優れた宣言文だと思うんです。デザインはヒューマニズムだと、ちゃんと伝えているんですから。それがだんだん所管する部局も変わり、デザイン博の主会場であった白鳥会場跡は国際会議場なので一般市民はなかなか行かない場所になりました。

同じ 1989 年に市制百周年で博覧会をやった横浜市では、会場であったみなとみらいでは都市整備も進み、いまも賑やかで、少しくらやましいです。

●海外のデザイン都市と比較して

ユネスコ・創造都市ネットワークに加盟して、海外のデザイン都市と交流する中で、先進例として印象に残るのは、サンティエヌ（フランス）とグラーツ（オーストリア）です。サンティエヌはリヨンのすぐそばに位置する人口 20～30 万人の工業都市です。リボンとか武器の製造業が盛んだったという特色がありますが、近年、産業は衰退傾向にありました。そこで、デザインの大学を核にデザインセンターをつくり、デザインを前面に推して都市を復活させるという、明確な戦略に則っています。

グラーツも人口は 20～30 万人で、自動車産業が盛んな都市です。グラーツ大学（1585 年設立）ははじめ大学の多い大学都市でもあり、美術館・博物館も多く存在します。グラーツは 1999 年に世界遺産に指定され、旧市街が歴史地区として保存され、そしてこれはヨーロッパ特有ですが、2003 年に欧州文化首都にも指定されています。その次のステップとしてデザイン都市申請に取り組みました。



↑グラーツの街並み *ユネスコ・デザイン都市なごや HP (デザインモナート グラーツ 2013 レポート) より

私たち名古屋市はグラーツで大掛かりな展覧会をやらせてもらいました。グラーツのデザイン都市担当者とはとても近い関係なので、ベルリンで名古屋市のデザイン紹介の展覧会をしたとき、それを 2013 年にグラーツでやらないかと誘ってくれました。このときの展覧会では学生の相互交流もおこなったので、とても良い経験となりました。グラーツから学生と先生が来名し、彼らは展覧会を開催するにあたり、名古屋に一週間滞在し、名古屋の学生たちと共に市内をリサーチし、建築、工芸、映像文化など全部を私たちと一緒にキュレーションし、グラーツで展示してくれました。

創造都市の考え方は、小さな都市の方がわかりやすく機能するのかなとも思います。世界のデザイン都市を見ると、例えばサンティエゴとかグラーツとかでは、デザインのフェスティバルをやって都市にデザインを浸透させるようなやり方をしています。それにより市民はデザイン都市であることに触れ理解していくわけです。少し大きなイベントをやると、都市が小さいので市民みんなの目に飛び込んでくるんです。でも名古屋市の規模の都市はどうなのかと考えると、やっぱり難しい面があります。デザイン博のときは3会場ですべてに博覧会の空気もつくりましたが、以降はどうしても専門家会議とか局所的なイベントとかに限られています。

名古屋市はこれら欧州のデザイン都市と比べると人口も多く、企業の数も業種も多いです。だから、どこに軸足を置くかによって、向かう方向が違ってきますし、絞り込むのも難しい現実があります。一方で、例えばトヨタはじめ、名古屋市、愛知県にはいろいろな企業、世界企業もたくさんありますけど、完全にグローバルな企業ですから名古屋市の枠には収まりきれません。もう少し地元で根ざしたところで、本当はきちんと産業界と行政で連携して、デザイン都市の事業をやっていけるのが理想です。

カナダのモンリオールはほぼ名古屋市と人口が同じなのですが、ここはデザイン政策がものすごく明確で、自分たちでデザイン・ポリシーをつくり、政策提言をおこなっています(*5)。市役所にはデザイン局が設けられており、モンリオールのデザイン・アクション・プランはwebでも公開されています。これがものすごく明快で、都市に対してデザインがいかに必要で、また機能するのか、どういった施策をやっていけばいいのか、こうすればこうなるということ、明確に書き表しています。

(*5) MONTRÉAL 2030 AGENDA FOR QUALITY AND EXEMPLARITY IN DESIGN AND ARCHITECTURE (https://designmontreal.com/sites/designmontreal.com/files/publications/agenda_mtl_2030_v1.12-2019_angl_lr.pdf)

どうしてモンリオール市はデザイン政策を体系的に進められるのかというと、たぶん行政の仕組みが違うんだと思います。私の知る範囲になりますが、モンリオールのデザイン局長はここ10年くらい一度も変わっておりません。昨年彼女が引退したので変わったんですけど、10年以上ずっと同じ人がデザイン局長を務めておりました。彼女は市役所の職員で、バックグラウンドは都市計画でした。

私たちがデザイン政策にここまでコミットメントできる環境をつくれたらいいとは思いますが。実際にはな

かなか難しいですが、デザイン都市交流を通じて、市役所の中で先進情報を共有し、良い事例をピックアップし、自分たちなりにアウトプットしていくのが必要なのかな、と。私たち自身があれこれ事業を行うことも大事ですが、本来はさまざまな人やモノ、コトをつなげたり、コーディネートするのが大切な役割なんだと感じています。

●デザイン都市と国際デザインセンター

デザイン都市であることを市民が理解するためには、新たな産業として創造産業を生み出すことが重要です。製造業の革新だけでなく、創造産業のかたちが見えてこない、理解はされないのかなとも思います。最近コーヒーショップがブームになっていますが、それも単なる飲食業でなく創造産業なんです。増えているのはシアトル・スタイルやエコサイクルを強く意識したり、コミュニティやインクルーシブな環境を生み出すなど新しいスタイルのコーヒーショップです。行政的には大事なことは統計的なカウントの仕方もかもしれません。

創造産業に対して行政は、助成など初期投資はするけれども、そこから先は自立して、というのが基本です。創造産業が成立していくためには、創造産業として自立できるフレームを行政としてつくっておく必要があると思います。何かを与えられて都市や産業が変わるのではなく、自分たちが気付いて動かしていく、そういうふうにならないと、本当の意味で変わることはないと思います。



↑左：デザインセンタービル（3～7Fが国際デザインセンター）／右：センターのロゴマーク *ユネスコ・デザイン都市なごやHP（デザイン都市のあゆみ）より

—— デザイン都市の展開を考えると、国際デザインセンターという会社がどうなっていくのかは重要だと思います。第3セクターの会社として、持続する仕組みをもってつくられたわけですが、それがいま創造産業としての見方ができるかどうか。

重要なことは、国際デザインセンターがデザイン振興事業を実施できるのは不動産事業の支えがあるから

です。設置の形態から不動産事業の収益をあてることが事業スキームとして設定されました。ただ残念なことに、不動産事業に変化があると、当初見込んだ通りには進まず、運営が困難なことになってしまい、デザイン振興事業の予算が安定的に確保できなくなるというのが現実です。

私個人の考え方を言えば、デザインセンターの空間はもっと開かれるべきだと思うんです。もっと市民に対してオープンに。例えば「喫茶ランドリー」をご存知と思います(*6)。最近グッドデザイン賞を受賞していますが、彼らはものすごくシンプルな考え方をしています、民設民営の公民館だと。もっと開けばいいじゃないかと。施設に閉じこもらず路面に開くことができればもっと人は来る。過剰につくりこまない、けど綿密に仕掛けはする。当事者であるグランドレベルのお二人（田中元子、大西正紀）のキャラクターももちろん大きいのですが、そういう発想で場づくりをしていく必要があるかと。

(*6) 「喫茶ランドリー」は、2018年、墨田区の住宅街に誕生した。洗濯機・乾燥機やミシン・アイロンを備えた「まちな家事室」付きの喫茶店で、コンセプトは「どんなひとにも自由なくつろぎ」。まちに暮らすあまねく人々に来てもらえる「私設公民館」のような場所になればとの想いでつくられた。事業主体は株式会社グランドレベル。2018年グッドデザイン賞受賞（グッドフォーカス賞：地域社会デザイン）。参照 <http://kissalaundry.com/index.html>

そう考えると、青少年文化センター（アートピア）も、とても完成度が高かったんですね。当時まだ普通には iMac に触れられないときに、アートピアに行けば自由に触れられたし、ちゃんと指導の専門職もいたのでいろいろ教えてくれました。そういう環境を無料でオープンに開放すると、都心の子どもたちが、まちなかに公園がなくてもそこに遊びに来るわけで、すごく理想的なカタチです。しかも世界的に有名なアーティストの作品もたくさん置いてあるんですが、誰も芸術作品とは思わない。子どもたちが自由に遊ぶ中で、意識せずに質の高い作品に触れている。それは文化振興のある種正しいカタチだと思います。それが本当の意味での啓蒙だし、教育かなと思うんです。あの時代にあって、とても思い切ったことをおこなった例だと言えます。

国際デザインセンターは、時代の変化に伴い、置かれた事業環境の変化に伴い、初期に与えられたミッションから時代の変化に伴って、新たなミッションを自らつくらないといけないのですが、実際には簡単ではありません。デザインの専門家と経営の専門家の両方のバランスのとれた組織づくりが必要なわけで、そう

いったフォーメーションをつくって運営していくというのが理想的です。

私も初めは会社の中におりましたが、2016年から市役所の中に入って、行政の仕事はなかなか難しさも感じていました。新しい事業の立ち上げるのに、関係の部局や議会との折衝は本当に大変で、役所の職員の皆さんは努力されています。少し違った視点で組織づくりができれば、もう少しいろいろなことができるかもしれないなと思います。

さきほどミッションに話題が及びましたが、やはり1990年代と2000年以降では変わっているんだろうと思います。難しいのは世間一般のデザインの認識が、名古屋ではまだまだプロダクトのイメージが強いということがあります。デザイン都市の構成団体には名古屋商工会議所も入っていますが、製造業が強い地域の特性もあるのでしょうか、やっぱり「デザイン＝モノ」のイメージが強いと感じています。

——名古屋では、ともかくデザインセンターという言葉は通じるようになってきているのは大きな成果だと思います。それはデザイン都市の足場の一步だと思うんです、デザインの認知ということで。他都市ではそもそもデザインセンターもないし、デザインの言葉も存在しませんから。

そうですね。それは財産です。今も海外の会議に出席すると、名古屋での会議や活動を覚えてくれている方がいます。いま私は観光・文化の部署にいますので、産業経済や都市計画など含めて名古屋市がデザイン都市としてどう展開して行くのか、どのように変化していくのかはとても気になります。

ちょうど昨年度末に「文化芸術推進計画2025」ができたところでして、そこでは「ユネスコ・デザイン都市なごや」は3本柱の一つに入ってます(*7)。予算の面では厳しい状況ですが、それでもたくさんのデザイン都市との交流の中で、名古屋の都市としてのポテンシャルの高さを考えると、未来は明るいと思っています。日々邁進していきたいと思っています。

(*7)名古屋市文化芸術推進計画2025(2021年3月)では、「文化芸術が活きるまち・芸どころ名古屋～文化芸術の灯を守り輝かせ、豊かな未来を創造する～」を基本理念に、3つの重点項目が掲げられている。1. 新たな文化芸術推進体制の構築(名古屋版アートカウンスル)、2. ユネスコ・デザイン都市なごや/ユネスコ創造都市ネットワーク、3. 新たな劇場の整備(市民会館の改築と文化施設の有機的連携。

(文責：黒田宏治) 2023. 04. 04

+++++

【参考1】ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ

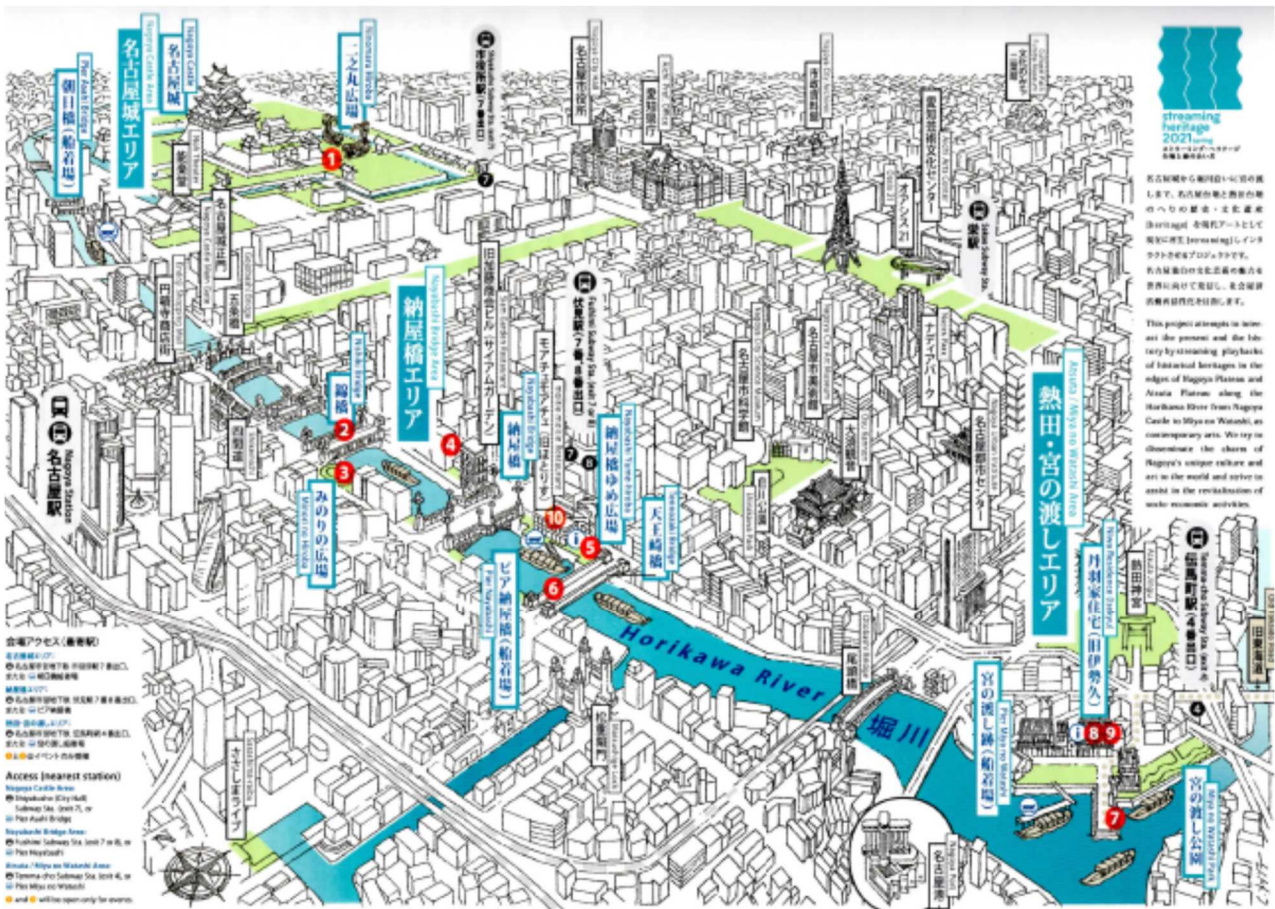
(1) 事業概要

名古屋台地と熱田台地のへりには、文化資源や観光資源がたくさんある。名古屋城から納屋橋を経て宮の渡し、さらには名古屋港まで。これらの資源をひと続きに結んでいるのが堀川の流れ [stream] です。この流れに現代アートが光をあて、名古屋の歴史・文化遺産 [heritage] をリアルタイムに再生 [streaming] する。それがストリーミング・ヘリテージの試みです。歴史と現在をインタラクトさせ、名古屋独自の文化芸術の魅力を世界に向けて発信する。それにより、社会経済活動再活性化へのきっかけにつながることを目指している。2020年度から3年度わたって開催された。日本博を契機とする文化資源コンテンツ創生事業（文化庁）助成事業である。（参照 <https://streamingheritage.jp/>）

【会期】 2021年3月12日～3月28日（Streaming heritage 2021 spring）

【会場】 名古屋城エリア、納屋橋エリア、熱田・宮の渡しエリア

【主催】 なごや日本博事業実行委員会（構成団体：名古屋市、ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会、公益財団法人名古屋まちづくり公社、名古屋商工会議所、中日新聞社）



↑ Streaming heritage 2021 spring 会場構成イメージ図

(2) 事業の構成 (Streaming heritage 2021 spring)

① 名古屋城エリア

- a. 映像とサウンドによるパフォーマンス「Re:No.3」、日栄一真（サウンド・メディア・アーティスト）＋竹市学（能楽笛方）＋辻雄貴（華道家）、3/20、名古屋城二之丸広場
- b. シンポジウム [名古屋城金鯱展] 連携事業「歴史をストリーミングする」、五十嵐太郎（東北大学教授、建築史）×市原えつこ（メディア・アーティスト）、3/20、名古屋城二之丸広場

② 納屋橋エリア

- c. 映像ライブ・パフォーマンス「Recollecting Shortages 2021」、井藤雄一（神奈川工科大学情報メディア工学科講師）、3/27、天王崎橋

- d. マイパブリック集結「ナゴヤ・パブリック・サーカス 2021」、グランドレベル（田中元子・大西正紀、喫茶ランドリー）、3/13, 14, 20, 21、納屋橋ゆめ広場（3/21 は雨天のため開催中止）
- e. ミュージックビデオ「alone2020」、佐藤美代（アニメーション）+BONZEI（音楽）、納屋橋エリアの壁面
- f. インスタレーション「Flying along a dry river bed 2021」、さわひらき（映像作家）、錦橋、みのり広場の壁面
- g. アーティスト・トーク「時間と場所性」、さわひらき（映像作家）×秋庭史典（本事業ディレクター）、3/26、モアチェモアチェ（旧ほとりす）
- h. インフォメーション MOBIUM（バスを改造した移動型ミュージアム/ラボラトリー）、納屋橋ゆめ広場
- i. トーク「堀川から見る名古屋：過去から未来をストーリーミングする」、竹中克行、秀島栄三、クレメンス・メツラー、3/15、モアチェモアチェ（旧ほとりす）

③ 熱田・宮の渡しエリア

- j. 展示+カフェバー「Art Space & Café Bar Barrack」、Barrack（近藤佳那子・古畑大気、ギャラリー&カフェスペース、瀬戸市）+阿野太一（写真）、丹羽家住宅（旧伊勢久）
- k. 展示・映像「TWENTY FIVE THOUSAND YEARS TO TRAP A SHADOW 2021」、平川祐樹（映像作家）、宮の渡し公園、丹羽家住宅（旧伊勢久）



↑ 2021 spring 実施報告書（A4・68 頁）

* 連携事業

- ・「なやばし夜イチ（マルシェ）」、3/12, 26、錦橋から納屋橋の遊歩道
- ・「宮の浜市 特別開催（あつた宮宿会）」、3/21、宮の渡し公演（天候不良のため開催中止）

+++++

+++++

【参考 2】ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業（平成 30 年度）



ユネスコ・デザイン都市なごやロゴマーク

（推進事業の趣旨に賛同する個人及び法人等が使用できる。）



名古屋市ユネスコ・ロゴマーク

（実行委員会及び構成団体の主催事業にのみ使用できる。）

主催組織 ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会

構成団体 名古屋市、中部デザイン団体協議会、風親商工会議所、公益財団法人名古屋市文化振興事業団、公益財団法人名古屋まちづくり公社名古屋都市センター、株式会社国際デザインセンター

● 交流事業 EXCHANGE PROJECTS

- 01 ユネスコ創造都市ネットワーク年次疎開 2018（クラクフ+カトヴィツェ/ポーランド）
- 02 デザイン都市・サブネットワーク会議（ダンディ/英国）
- 03 第 1 回ユネスコ創造都市ネットワーク国内ネットワーク都市会議（名古屋）
- 04 「ソウル・デザイン・クラウド」持続可能なヒューマンシティ デザイン会議+エキシビジョン（ソウル）
- 05 シンガポール・デザイン・ウィーク+パブリック・フォーラム（シンガポール）
- 06 都市のデザイン | 10th グラーツデザインモナート 2018（グラーツ/オーストリア）

●人材育成・啓発事業 CREATIVE CAFÉ : HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT

- 01 クリエイティブ・カフェ Vol.5 「まちとつながるビジュアル・コミュニケーション・デザインのちから」
- 02 クリエイティブ・カフェ Vol.6 「名古屋城本丸御殿を楽しむ」
- 03 クリエイティブ・カフェ Vol.7 「トーヴェ・ヤンソンから見たフィンランドの暮らしとデザイン」
- 04 クリエイティブ・カフェ Vol.8 「イタリア・トリノの「地区の家」に学ぶコミュニティ・ハブのエッセンス」
- 05 親子デザインワークショップ「親子でカレンダーをデザインしよう」

●特別協力事業 SPECIAL COLLABORATIVE PROJECTS

- 01 名古屋城本丸御殿完成公開 PR プロジェクト+祈念式典 企画・コーディネーター
- 02 千種区多文化共生リーフレット（多言語展開）
- 03 あいちトリエンナーレ 2019 デザイン・コーディネーター
- 04 蓮沼執太フィル アントロボセン EXTINGUISHERS 愛知全方位型

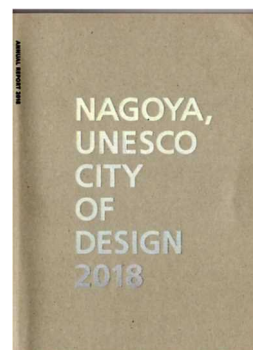
*推進事業 Promotion Projects（構成団体が主催する事業でデザイン都市の推進を行うもの）

- 01 名古屋少年少女発明クラブ（市民経済局産業部次世代産業振興課）
- 02 平成 30 年度クリエイティブ産業創造支援事業（市民経済局産業部次世代産業振興課）
- 03 やっとかめ文化祭 2018（やっとかめ文化祭実行委員会）
- 04 アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018（アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会）
- 05 文芸による名古屋の魅力発信事業コトノハなごや（文芸による名古屋の魅力発信事業実行委員会）
- 06 第 64 回名古屋まつり（名古屋まつり協議会）
- 07 ジャパンてぬぐい名古屋（観光文化交流局／株式会社バックタケヤマ）
- 08 東山動物園ナイト ZOO（緑政土木局東山総合公園管理課）
- 09 もみじ狩り・紅葉ライトアップ（緑政土木課東山総合公園管理課）
- 10 多文化共生推進パンフレット（千種区版）（千種区役所地域力推進課）
- 11 中部デザイン団体協議会創立 30 周年記念リレートーク「伝えるデザイン」（中部デザイン団体協議会）
- 12 中部デザイン団体協議会創立 30 周年記念リレートーク「社会とつながる人のデザイン」（中部デザイン団体協議会）
- 13 第 2 回 Nagoya チラシデザイン大賞（公益財団法人名古屋市文化振興事業団）
- 14 ファン・デ・ナゴヤ美術展（公益財団法人名古屋市文化振興事業団）
- 15 名古屋市民芸術祭（公益財団法人名古屋市文化振興事業団）
- 16 名古屋市民美術祭（公益財団法人名古屋市文化振興事業団）
- 17 子どもアート万博 2018（公益財団法人名古屋市文化振興事業団）
- 18 陽輝荘天街展（公益財団法人名古屋市文化振興事業団）
- 19 市民芸術祭 2019 参加公演募集（公益財団法人名古屋市文化振興事業団）

*連携事業 Cooperation Projects

（構成団体以外が行う事業でデザイン都市の取組に賛同し、地域のデザイン振興に資する事業）

- 01 中部デザイン協会定期総会・記念講演会（中部デザイン協会）
- 02 第 8 回先進セラミックス国際ワークショップ in 名古屋（IWAC08 実行委員会）
- 03 ワールドインテリアウィーク 2018 名古屋（公益社団法人日本インテリアデザイナー協会中日本エリア）
- 04 第 28 回わたらしい住まいづくり（公益社団法人愛知建築士会女性委員会）
- 05 長者町アートハッカソン ART FARMing（長者町スクール・オブ・アート）
- 06 なごや VISION 展 2019（名古屋学芸大学メディア造形学部デザイン学科）
- 07 デザイン・トリプレックス 15（デザイン・トリプレックス 15 実行委員会）



↑ ANNUAL REPORT 2018
(A5・63 頁)

*参照：ANNUAL REPORT 2018 (NAGOYA, UNESCO CITY OF DESIGN 2018)

ユネスコ・デザイン都市なごや HP <https://www.creative-nagoya.jp/>

+++++